

2023年9月4日(月)教会のデボーション

ルツ記1章1～22節

『先の見えない中での一歩』

■ ルツ記の概略 * 中心人物…ナオミ、ルツ、ボアズ。士師記の時代のまことの信仰者たち。

1. 「さばきつかさが治めていたころ」とは、士師が人々を導いていた不信仰と無秩序の時代。
2. 父エルメク、妻ナオミ、兄マフロン、弟キルヨンの4人家族。モアブ人の嫁ルツ、オルパ。
3. モアブ出身のルツはナオミを通してまことの神を信じ、ベツレヘムでの新しい人生を歩み出す。

本論:『先の見えない中での一歩』 * ルツ記1章を読みましょう

1. 「ナオミを襲った悲劇」(1章1～5節) * 飢饉のため、モアブの野(異郷の地)に移住する。

①ベツレヘムから移住してきたエリメクの一家にはどんな困難があったと思いますか。

→

②約十年の間に、ナオミにはどんな不幸がありましたか。また、どんな幸いがありましたか。

→

③その後、さらにナオミにはどんな不幸がありましたか。彼女はどんな思いでいたと思いますか。

→

2. 「二人の嫁のために」(6～14節) * ナオミは二人の嫁と一緒にベツレヘムへと帰郷する。

①二人の嫁にとって、ナオミと一緒にベツレヘムに行くことはどんな困難が予想されますか。

→

②ナオミが二人の嫁に言った言葉から、彼女がどんな信仰者だったことがわかりますか。

→

③ナオミはどんな思いで、二人の嫁を説得していたと思いますか。

→

3. 「ナオミとルツの帰郷」(15～22節) * オルパは自分の民と神々のところへ帰って行った。

①ルツはどうしてナオミが行くところに自分も行き、住むところに住むと言ったのでしょうか。

→

②故郷ベツレヘムではナオミを見て騒ぎ出しましたが、彼女自身はどんな思いだったでしょう。

→

③ベツレヘムに着いたルツはどんな思いだったでしょう(大麦…貧しい人々の食材)。

→

【適用と分かち合い】 * 「ナオミ」(快いの意味)…「マラ」(苦しむの意味)

1. ナオミは、次々と起こる苦難についてどのように思っていたでしょう。
2. ナオミと二人の嫁は、息子たちがいなくなった後も、どんな関係だったと思いますか。
3. ルツはどうして故郷を離れ、ナオミについて行く決心ができたのでしょうか。